

助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川洋平様

報告日付:2014年4月11日
事業ID:2012062687
事業名:福島県の震災復興のための
行政・各種団体・NPO協働支援
団体名:一般社団法人ふくしま連携復興センター
代表者名:代表理事 丹波史紀
TEL: 024-573-2732
FAX: 024-573-2733
事業完了日: 2014年3月31日

事業費総額	27,347,028 円 (収支計算書に記載する決算額)
自己負担額	14,247,028 円
助成金額	13,100,000 円 (千円未満は切り捨て)

事業内容:

以下、今後、地域別、及び、分野別において、行政、社協、企業、民間団体間で課題が共有され、他業種間連携による「協働プロジェクト」が形成できる基盤を整備するため、設定した2点の目的のもと、事業を実施した。

- 1) 福島県の自立的復興を支えるべく、福島県内の課題や対策(事例)の情報発信を行う。
- 2) ふくしま連携復興センター(以下、当団体)の事業内容を支えられるよう、当団体・当団体の会員団体の情報発信を行う。

具体的な事業実施項目は、情報収集・発信(広報業務)の計画策定の他、情報発信を支える情報収集で下記2点、情報発信で下記7点、その他として下記2点である。

【情報収集】

1) 取材(ヒアリング)による情報収集

当団体の会員団体等の取材(ヒアリング)による情報収集を、合計53件(4~5件/月)実施し、福島県復興の現状に関する取り組みや課題について、情報集約・収集を行った。

2) 当団体の会員団体広報物の定期的閲覧による情報収集

当団体の会員団体のHP等、Web情報発信媒体での情報発信による更新情報を1回/週で、当団体へ送付される会員団体の広報誌等を随時閲覧し、福島県復興の現状に関する取り組みについて、情報集約・収集を行った。

【情報発信】

1) 当団体HPの再構築

「福島県の自立的復興を支えるべく、福島県内の課題や対策(事例)の情報発信」と「当団体の事業内容を支え、当団体・当団体の会員団体の情報発信」を行う上で、不完全(簡易的)であった当団体HPの再構築を、2013年4月~7月の期間で行った。当団体の活動内容・履歴を理解することが可能であるだけでなく、当団体の活動トピック、当団体の会員団体の活動紹介・活動報告が日常的かつ恒常的に情報発信でき、当団体のHPが、福島県復興関連団体の情報のハブ

になりえるポータルサイトになるよう、当団体HPの再構築を行った。

また、「寄付ページ」の作成によるファンドレイジングの強化等、継続的に当団体が福島県復興に寄与し、形成を目指す他業種間連携による「協働プロジェクト」の持続可能な運営を可能にするため、2013年7月以降も、引き続き当団体HPの再構築を行った。

2) 当団体HPによる情報発信

上記で再構築を行った当団体HPにて、合計377件(約30件/月)の記事投稿を行った。投稿記事の内訳は下記のようなものである。

- ・当団体に関する投稿：177件

※内訳

お知らせ：21件 イベント情報：45件 活動報告・メディア掲載情報：80件

助成金情報：23件 その他：8件

- ・当団体の会員団体に関する投稿：200件

※内訳

お知らせ：8件 イベント情報：80件 活動報告・メディア掲載情報：109件

助成金情報：2件 その他：1件

3) 当団体facebookページによる情報発信

当団体HPへの導線として、当事業への助成以前より、当団体で制作・運用されてきた当団体facebookページの本格運用を開始し、上記、「当団体HPによる情報発信」で行った記事投稿を当団体facebookページにて転用し、同等数の記事投稿を行った。facebookというSNSを用いた、当団体・当団体の会員団体の情報発信を行うことにより、当事業で発信する情報リーチの拡大を行った。

4) 当団体メーリングリストの運用による情報発信

当事業への助成以前より、当団体で制作・運用されてきた、当団体・当団体の会員団体・当団体の連携団体で構成される、メーリングリストを活用し、メーリングリストでの情報発信を行い、当団体メーリングリストによる、他業種間による情報共有と情報拡散、当団体のネットワーク間での協働促進への媒体として、メーリングリストを利用した。また、当団体で収集・整理した助成金情報を1~2回/月で投稿することにより、当団体のネットワーク団体へのファンドレイジングの機会の創出を行った。メーリングリストには、当団体からの投稿として、下記のような、合計127件の投稿を行った。

- ・当団体からのメーリングリストへの投稿内訳

お知らせ：19件 イベント情報：68件

活動報告(主催イベント議事録等)：13件 助成金情報：27件

※参考：当団体の会員団体、連携団体より、5~15件/月の投稿があった。

5) 当団体メールマガジンの開発と運用による情報発信

当団体・当団体の会員団体を含む、福島県の復興関連事業との継続的な関係性構築のため、当団体理事、事務局職員が名刺交換を行った方々を対象とした、メールマガジンの開発を2013年5月~6月の期間で行った。主な開発内容として、名刺データベースの構築と、メールマガジンのフォーマットを作成した。メールマガジンは、名刺データベースに登録された約1500名(2013年3月31日時点)を対象に、下記のような合計14件の配信を行った。

- ・当団体メールマガジンの合計配信数：14件

※内訳

2013年7月~10月：各1回

2013年11月：3回

2013年12月：1回

2014年1月~3月：各2回

6) 広報誌による情報発信

当団体の会員団体であるNPO法人 福島ライフエイドとの協働で、福島ライフエイドが制作を行っていた、県外生活者と福島生活者をつなぐフリーペーパー『吹く島』にて、当団体の特設ページを開設し、4号（吹く島Vol.7～Vol.10）に渡り、下記のように、合計8ページの情報発信を行った。当団体の会員団体との協働事業という側面に加え、紙媒体での情報発信、県外避難者への福島県内の復興関連団体の取り組みに関する情報共有がなされた。

- ・ 広報誌（県外生活者と福島生活者をつなぐフリーペーパー『吹く島』）掲載内容内訳
吹く島Vol.7：1団体（当団体 活動紹介）
吹く島Vol.8：1団体（当団体 会員団体 活動紹介）
吹く島Vol.9：3団体（当団体 会員団体 活動紹介）
吹く島Vol.10：14団体（当団体の会員団体を中心として協働で開催した「福島オールスター百貨店」の活動報告を通じた活動紹介）

※参考：県外生活者と福島生活者をつなぐフリーペーパー『吹く島』に関して

- ・ 発行部数：2000部～3000部
- ・ 配布団体、箇所
当団体の会員団体を含む、当団体の事業と関係性が高い行政、社協、企業、民間団体 約200団体
福島市飲食店、福島市商店、福島県の県外避難者受け入れ団体等 約25ヶ所

7) プレスリリース

当団体のイメージおよびその施策や事業内容などについて多くの人々に理解や協力を訴求し、施策や事業内容の社会性を担保するため必要とされる、マスコミへのメディア掲載を促進するため、当団体の主催・共催イベント等に関してプレスリリースを作成、福島県庁記者クラブへの配布を、合計13回行った。

- ・ 当団体メディア掲載 合計43件

※内訳

新聞：32件 TV：4件 その他（インターネットメディア等）：7件

【その他】

「福島県の自立的復興を支えるべく、福島県内の課題や対策(事例)の情報発信」と「当団体の事業内容を支えられるよう、当団体・当団体の会員団体の情報発信」を実現するため、当団体の会員団体による自主的な情報発信促進を目的とした、当団体の会員団体を対象とした、情報発信ツールの導入、情報発信に関する研修、情報発信系プロボノの派遣コーディネート、国内大手インターネットポータルサイトへの無料広告掲載に関するコーディネートを行った。

1) 情報発信ツールの導入、情報発信に関する研修：合計3件

- ・ 情報発信ツールの導入 1件

当団体の会員団体である、いわき市の中間支援団体、NPO法人3.11被災者を支援するいわき連絡協議会（愛称：みんぷく 以下、みんぷく）を対象とし、みんぷく会員団体の交流促進を目的としたメーリングリストの導入と運営支援、みんぷく活動内容・報告等の情報リーチ拡大を目的としたfacebookページの開設と運営支援を行った。

- ・ 情報発信に関する研修：2件

みんぷく、NPO法人いわき自立生活センターの活動可視化のため、広報計画の策定方法、情報発信ツールの使用用途の紹介等の研修を実施し、両団体から合計5名の参加があった。

また、当団体の2014年2月定例会議にて、情報発信の先進事例共有を目的とした、情報発信ツールの使用用途の紹介等の「広報活動」に関する研修を行った。当研修には、当団体の会員団体を中心に8団体16名の参加があった。

2) 情報発信系プロボノの派遣コーディネート：3団体6件

当団体の会員団体3団体を対象に、更なる情報発信の拡大を目的に据え、広報計画の策定、国外への団体認知戦略アドバイス等を行う、首都圏で活躍するプロボノの派遣コーディネートを6件行った。

3) 国内大手インターネットポータルサイトへの無料広告掲載に関するコーディネート：

9団体（当団体含む）

国内大手インターネットポータルサイトにて募集が行われた無料広告掲載に関して、当団体が、福島県内民間団体の推薦窓口の依頼を受け、当団体の会員団体を中心とした9団体（当団体含む）のコーディネートを行った。この無料広告掲載は、福島県内外へ、当団体の会員団体を中心とした、福島県の復興関連団体の取り組みを紹介するとともに、団体周知方法として活用されている。

※参考：国内大手インターネットポータルサイトへの無料広告掲載枠の価値に関して

今回の国内大手インターネットポータルサイトへの無料広告掲載枠は、国内大手インターネットポータルサイト約100万円分の広告掲載料金に値する。そのため、当団体の紹介により、福島県内民間団体に対し、合計約900万円分（約100万円/団体×9団体）の価値が創造された。

また、当事業を通し、他業種間連携による「協働プロジェクト」が形成され、プロジェクトの運営が行われた（下記、「事業目標の達成状況」参照）。

事業目標の達成状況:

上記事業の目的を達成するため、上記の情報収集・発信を行った。情報収集・発信（広報業務）の計画策定の際に設定した事業目標は、下記2点である。

1) 当団体会員数 100団体

事業開始以前（2013年3月時）では、54団体であった会員団体数を約2倍である100団体に増加させ、今後、地域別、及び、分野別において、行政、社協、企業、民間団体間で課題が共有され、他業種間連携による「協働プロジェクト」が形成できる基盤を整備する。

2) 当団体HP 訪問数 50人/日

事業開始時（2013年4月）に計測した当団体のHPの訪問数は、24人/日であり、一団体、もしくは一事業者のHPが安定的な訪問数を確保し、稼働していると一般的に言われる、50人/日を事業目標に設定した。この事業目標数字は、事業開始時の約2倍にあたり、この事業目標数字を達成することにより、「福島県の自立的復興を支えるべく、福島県内の課題や対策(事例)の情報発信」と「当団体の事業内容を支えられるよう、当団体・当団体の会員団体の情報発信」が達成されると考えられる。

事業目標は下記のように達成され、他業種間連携による「協働プロジェクト」が形成できる基盤の整備がなされ、「福島県の自立的復興を支えるべく、福島県内の課題や対策(事例)の情報発信」と「当団体の事業内容を支えられるよう、当団体・当団体の会員団体の情報発信」が達成された。

1) 当団体会員数

107団体（2014年3月31日時点）

※参考：当団体会員 分野毎内訳

被災者生活支援分野：18団体

保険・健康分野：8団体

まちづくり・復興計画分野：14団体

産業再生・育成・就労支援分野：16団体

福祉・高齢者・障がい者支援分野：4団体

子ども・教育・家庭分野：21団体

その他（中間支援、情報発信等）：26団体

2) 当団体HP 訪問数

62人/日（2013年12月）

77人/日（2014年1月）

58人/日（2014年2月）

68人/日（2014年3月）

参考) facebookページ「いいね数」増加（約2倍）

589（2013年4月1日）→1201（2014年3月31日）

また、上記事業の目的を達成するため、上記の情報収集・発信を行った結果、他業種間連携による「協働プロジェクト」が形成できる基盤整備がなされ、下記のような「協働プロジェクト」が形成された。

1) 平成25年度 株式会社デサント 東北支援事業 福島『いきいき』健康教室

・実施年月日

第1回 1日目 2013年9月29日（日） 開催

第1回 2日目 2013年10月13日（日） 開催

※第2回を2014年春に実施予定

・協働該当業種

社協：富岡町社会福祉協議会 生活復興支援おだがいさまセンター

企業：株式会社デサント

民間団体：一般社団法人ふくしま連携復興センター

- ・ 成果
 - 第1回 1日目 富岡町の仮設住宅（郡山市）にお住まいの方々を中心に約25名が参加。
 - 第1回 2日目 富岡町の仮設住宅（郡山市）にお住まいの方々を中心に約30名が参加。

- ・ 活動写真



※写真1・2：第1回 1日目の様子

2) ふくしま復興まちづくりシンポジウム

- ・ 実施年月日

第1回 2013年11月1日（金） 開催

第2回 2014年3月10日（月） 開催

※第3回以降も継続実施予定

- ・ 協働該当業種

民間団体：NPO法人まちづくりNPO新町なみえ

一般社団法人ふくしま連携復興センター

二本松・浪江連携復興支援センター

その他セクター：早稲田大学佐藤滋研究室、早稲田大学都市・地域研究所

- ・ 成果

第1回 浪江町、大熊町、双葉町、富岡町及び南相馬市小高区で復興やまちづくり、コミュニティづくりに取り組んでいる民間団体や個人の方々を中心に約40名が参加。

第2回 福島県の各エリアを対象に、避難地域及び、受け入れ地域における市民、行政職員、各支援団体、企業の方々を中心に、約90名が参加。

- ・ 活動写真



※写真3・4：第2回開催時のワークショップの様子

3) 福島オールスター百貨店 ～誰もが主役の復興フェア～

- ・ 実施年月日

2013年12月13日（金） 開催

- ・ 協働該当業種：

社協：富岡町社会福祉協議会 生活復興支援おだがいさまセンター おだがいさま工房

企業：株式会社IIE

民間団体：

NPO法人ウェブストーリー、NPO法人 元気になろう福島、
東日本大震災支援全国ネットワーク（JCN）、
一般社団法人ふくしま連携復興センター、
いわき・おてんとSUNプロジェクト、いわきオーガニックコットンプロジェクト、
NPO法人JDF被災地障がい者支援センターふくしま、一般社団法人手づくりマルシェ、
NPO法人まちづくりNPO新町なみえ、かーちゃんのか・プロジェクト協議会、
NPO法人 青空保育たけの子、一般社団法人みんな未来センター、
災害支援緊急援助隊アガペーCGN・福島県支部、NPO法人ふよう土2100、
NPO法人3.11被災者を支援するいわき連絡協議会（愛称：みんなふく）、
NPO法人ボランティアインフォ

・成果

民間団体関係者、行政職員、企業の関係者、一般の方々など約400名が来場

・写真



※写真5：開催中の様子



※写真6：協働団体集合写真

事業成果物:

当事業成果物として、下記が挙げられる。

- 1) 当団体HP <http://f-renpuku.org/>

ふくしま連携復興センター

一般社団法人 ふくしま連携復興センター
024-573-2732
info@f-renpuku.com

回復について about | 会員情報・連携団体 membership | 福島県情報 fukushima information

「ふくしま復興応援隊」スタート WEB サイト オープン

写真: 福島県新地町
「ふくしま復興応援隊」は、被災地の復興・まちづくりに取り組みます。

ふくしま連携復興センターについて

ふくしま連携復興センターは、東日本大震災に伴う被災した地域および被災者自身の自立的な復興を目指し、様々な支援のコーディネートやネットワークづくり、情報提供・情報発信、事業連携・協働推進を支えるべく活動しています。

- 協働推進機能
- 情報収集・発信機能
- 提言機能

ご寄付のお願い | 採用情報

ふみだす生活サポートセンター

Search... 検索

Facebookもチェック

会員団体のお知らせ

2014/04/01

Reconstruction Agency

東北に行きたよ。

福島県 Fukushima Prefecture

ETIC Entrepreneurial Training for Innovative Communities

みんなでがんばろう日本
公益財団法人東日本大震災復興支援財団

JAPAN PLATFORM

公益財団法人 トヨタ財団

日本NPOセンター

Supported by 日本 THE NIPPON 財団 FOUNDATION

このWEBページは、公益財団法人 日本財団の助成により、制作しております。

※参考：再構築を行った当団体HP TOPページ（2014年3月15日時点）キャプチャ

吹く島Vol.9 : 3団体 (当団体 会員団体 活動紹介)

福島の復興を目指して... — ともに行動する「仲間づくり」 —

吹く島で4月24日開催、福島県内外で復興支援を志す自治体の関係者らによる懇話会「福島の復興を目指して...」を開催しました。今回は第3弾として「復興に向けた先進的な活動をしているプロジェクト」を特集します。一般社団法人くしま復興センター(以下「くしま」)と連携した会員団体から、くしまと連携してNPO法人移動教育プロジェクトの『ワタク自然体験保育園「ココカラ」』を運営する『NPO法人ザ・ビートルズ』のふくしま「オーガニックコットンプロジェクト」と一般社団法人Bridge for Fukushimaの「福島復興かけはしツアー」を紹介しました。

※本誌掲載はくしまと連携して、くしまと連携して復興活動を行う団体に「特別扱い」としてご紹介いただき、掲載させていただきます。

くしま支援 ワタク自然体験保育園「ココカラ」～NPO法人 移動教育プロジェクト～

高萩地区の子たちを低萩地区へ毎日送迎する移動型 自然体験保育園を実現

「復興支援の一端を担い、被災地に復興支援を志す自治体の関係者らによる懇話会」を開催しました。今回は第3弾として「復興に向けた先進的な活動をしているプロジェクト」を特集します。一般社団法人くしま復興センター(以下「くしま」)と連携した会員団体から、くしまと連携してNPO法人移動教育プロジェクトの『ワタク自然体験保育園「ココカラ」』を運営する『NPO法人ザ・ビートルズ』のふくしま「オーガニックコットンプロジェクト」と一般社団法人Bridge for Fukushimaの「福島復興かけはしツアー」を紹介しました。

※本誌掲載はくしまと連携して、くしまと連携して復興活動を行う団体に「特別扱い」としてご紹介いただき、掲載させていただきます。

吹く島Vol.9 : 3団体 (当団体 会員団体 活動紹介)

復興再生 ふくしまオーガニックコットンプロジェクト～NPO法人ザ・ビートルズ～

有機栽培で育て、収穫したオーガニックコットンを製品化、販売する6次産業化

「復興支援の一端を担い、被災地に復興支援を志す自治体の関係者らによる懇話会」を開催しました。今回は第3弾として「復興に向けた先進的な活動をしているプロジェクト」を特集します。一般社団法人くしま復興センター(以下「くしま」)と連携した会員団体から、くしまと連携してNPO法人移動教育プロジェクトの『ワタク自然体験保育園「ココカラ」』を運営する『NPO法人ザ・ビートルズ』のふくしま「オーガニックコットンプロジェクト」と一般社団法人Bridge for Fukushimaの「福島復興かけはしツアー」を紹介しました。

※本誌掲載はくしまと連携して、くしまと連携して復興活動を行う団体に「特別扱い」としてご紹介いただき、掲載させていただきます。

吹く島Vol.10 : 14団体 (当団体の会員団体と中心として協働で開催した「福島オールスター百貨店」の活動報告を通した活動紹介)

福島の復興を目指して... — ともに行動する「仲間づくり」 —

吹く島で4月24日開催、福島県内外で復興支援を志す自治体の関係者らによる懇話会「福島の復興を目指して...」を開催しました。今回は第3弾として「復興に向けた先進的な活動をしているプロジェクト」を特集します。一般社団法人くしま復興センター(以下「くしま」)と連携した会員団体から、くしまと連携してNPO法人移動教育プロジェクトの『ワタク自然体験保育園「ココカラ」』を運営する『NPO法人ザ・ビートルズ』のふくしま「オーガニックコットンプロジェクト」と一般社団法人Bridge for Fukushimaの「福島復興かけはしツアー」を紹介しました。

※本誌掲載はくしまと連携して、くしまと連携して復興活動を行う団体に「特別扱い」としてご紹介いただき、掲載させていただきます。

福島オールスター百貨店

復興再生 福島復興かけはしツアー ～一般社団法人 Bridge for Fukushima～

「復興支援の一端を担い、被災地に復興支援を志す自治体の関係者らによる懇話会」を開催しました。今回は第3弾として「復興に向けた先進的な活動をしているプロジェクト」を特集します。一般社団法人くしま復興センター(以下「くしま」)と連携した会員団体から、くしまと連携してNPO法人移動教育プロジェクトの『ワタク自然体験保育園「ココカラ」』を運営する『NPO法人ザ・ビートルズ』のふくしま「オーガニックコットンプロジェクト」と一般社団法人Bridge for Fukushimaの「福島復興かけはしツアー」を紹介しました。

※本誌掲載はくしまと連携して、くしまと連携して復興活動を行う団体に「特別扱い」としてご紹介いただき、掲載させていただきます。

吹く島Vol.10 : 14団体 (当団体の会員団体と中心として協働で開催した「福島オールスター百貨店」の活動報告を通した活動紹介)

復興再生 福島復興かけはしツアー ～一般社団法人 Bridge for Fukushima～

「復興支援の一端を担い、被災地に復興支援を志す自治体の関係者らによる懇話会」を開催しました。今回は第3弾として「復興に向けた先進的な活動をしているプロジェクト」を特集します。一般社団法人くしま復興センター(以下「くしま」)と連携した会員団体から、くしまと連携してNPO法人移動教育プロジェクトの『ワタク自然体験保育園「ココカラ」』を運営する『NPO法人ザ・ビートルズ』のふくしま「オーガニックコットンプロジェクト」と一般社団法人Bridge for Fukushimaの「福島復興かけはしツアー」を紹介しました。

※本誌掲載はくしまと連携して、くしまと連携して復興活動を行う団体に「特別扱い」としてご紹介いただき、掲載させていただきます。

3) ファンドレイジング（寄付金）

HPでの寄付ページ制作等のファンドレイジングの強化、広報誌での寄付金の呼びかけにより、総額1,055,000円の寄付金があった。

また、上記の「協働プロジェクト」が事業成果物として挙げられるとともに、当事業の広報業務により他業種間連携による「協働プロジェクト」の形成が促進され、「ふくしま復興応援隊」の当団体からの福島県への提案等、行政（福島県）と民間団体の「協働プロジェクト」が形成された。

※当団体として、「福島県復興支援専門員（ふくしま復興応援隊）」を受託

【当事業の広報業務による「協働プロジェクト」形成の流れ】

主催イベントのプレスリリース

↓

主催イベントの開催

↓

メディア掲載

↓

メディア掲載を閲覧した他業種からの当団体へのお問い合わせ

↓

当団体から、お問い合わせ団体への「協働プロジェクト」提案

今後、当事業により、当団体の会員団体という持続可能な他業種間のネットワークが形成されたため、他業種間の「協働プロジェクト」の形成が加速化されると考えられる。来年度（2014年4月～2015年3月）の貴団体による当団体の助成事業では、福島県の復興に向け、他業種間の「協働プロジェクト」を事業の中心に据え、「協働プロジェクト」の形成を実施する。

収支計算書

(2013 年 4 月 1 日から 2014 年 3 月 31 日まで)

収入の部

(単位:円)

科目	予算額	決算額	受入済額	未調達額	備考
日本財団助成金収入	13,100,000	13,100,000	13,100,000		
自己負担	13,100,000	14,247,028	14,248,028		
収入合計	26,200,000	27,347,028	27,347,028		

支出の部

(単位:円)

科目	予算額	決算額	支出済額	未払額	備考
人件費	16,200,000	12,976,798	11,969,423	1,007,375	
謝金	280,000	633,481	633,481		
旅費交通費	3,120,000	2,718,587	2,544,809	173,778	
外注費	2,400,000	2,022,795	2,022,795		
広告宣伝費	840,000	731,010	731,010		
通信費	940,000	1,146,014	1,146,014		
会議費	170,000	418,903	418,903		
リース料	120,000	924,948	924,948		
消耗品費	450,000	708,533	708,533		
事務用品費	36,000	536,611	536,611		
地代家賃	780,000	2,589,600	2,589,600		
新聞図書費	480,000	205,472	205,472		
水道光熱費	360,000	255,564	255,564		
事務所諸経費	24,000	1,478,712	1,478,712		
支出合計	26,200,000	27,347,028	26,165,875	1,181,153	